

札幌いしやま病院 CT 室紹介

はじめまして。札幌いしやま病院の十良澤と申します。今年3月に Aquilion Start を導入した当院の CT 室を紹介します。

当院は札幌市中央区にあり病床数 60 の病院と外来クリニックを持つ肛門科の施設です。1977 年開業以来肛門外科、内視鏡外科（胃・大腸）、便秘外来を専門とし、年間 6 万人の外来患者数及び年間 5000 例の手術（うち日帰り手術 1500 例）の実績があります。

放射線科では、術前の胸部 X P、骨盤腔 C T の他、ディフェコグラフィ、肛門部ガストロ瘻孔造影など専門的な検査を行っています。更に外来でのエコー検査、肛門機能検査の補助作業も行っています。

C T 検査は 8 割が骨盤腔の plain 撮影ですが、系列の形成 CL のオーダーや近隣の内科からの依頼の胸部 C T などに対応しています。

外来クリニックの建物と入院病棟が離れているため、一人で行き来するのは入職当初かなりの負担でした。各部署とは院内用携帯電話にて連絡を取り合っています。

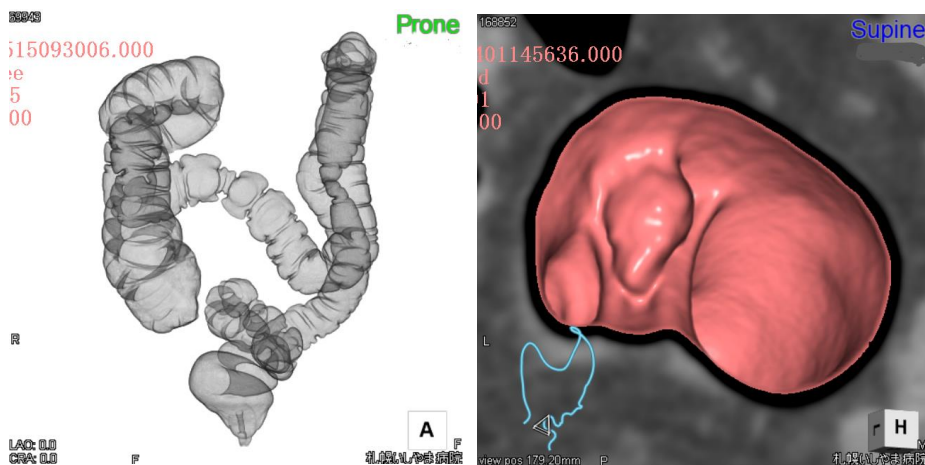
昨年末に前機種（Activion16）が 10 年を超え C T の入れ替えを検討。当初は Lightning を紹介いただき見積もり等進んでいましたが、直前に Start が発売になり、低被ばく、高画質とコストパフォーマンスが良いという事で急遽こちらを導入しました。

実際稼働してみて、線量の減少、金属アーティファクトの軽減がみられ、何より再構成の時間短縮がありがたいです。肛門疾患の患者様は老若男女を問わないので被ばく軽減も大きな利点で

す。又、チルトについても抵抗なく使用できています。寝台スライドの前後移動専用ボタンが無い点だけは慣れないです。

今回のタイミングで CTC も新たに導入しました。ワークステーション(Ziostation2)とエニマ CO2 を設置。肛門からの出血を認める患者様の場合には出血源が大腸にあることも多いため大腸内視鏡検査が重要なのですが、どうしても内視鏡を嫌がる患者様、また病変や大腸の形状によっては内視鏡が途中までしか到達しない例もあり、CTC を有効活用できればと考えています。

前機種においても後者の例ではコンソールのVEで使用してきましたが、どちらかというとなガスが連続ではない場合コンソールでの再構成も見やすい事があります。現在は併用しながらの活用になっています。



Ziostation2 での処理画像 (CTC)

実際に被験者として自ら CTC を経験しましたが短時間で終わるといふ点はとても楽です。患者様の身体的負担はかなり軽減されているとおもいます。

日をおいて大腸内視鏡を初体験した感想（次回は麻酔なしでは無理！！！！）と併せると CTC は前処置と読影の精度が上がれば、もっと有効活用できる夢のような検査だと実感しました。

日進月歩の医療業界についていくのは大変で、ましてや肛門科という非常に専門的な分野では情報交換の機会も乏しいのですが、少しでも技術を進歩しお役に立てるよう日々努力していく所存です。

以上、簡単ではございますが当院の CT 室をご紹介しました。最後までお付き合いくださり有り難うございました。